

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900511		
法人名	社会福祉法人みずき会		
事業所名	グループホームアスカみずき I		
所在地	千葉県船橋市飯山満町1-206		
自己評価作成日	令和6年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://mizuki-asuka.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	書面調査		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

最良の職場環境の構築の理念の下、サービスプロフィットチェーン経営として、職員が働きやすい環境づくりに努め、ES(従業員の会社に対する満足度)向上に繋げ、サービスを活性化させ、入居者の皆さまへのサービスの質の向上・CS(顧客満足度)向上に繋げます。常勤の看護師を配置している事で、主治医である訪問診療医と連携を密にし、入居者の皆さまの日々の健康管理維持に努めている。また、医療面でもより柔軟な対応をする事が出来るように訪問看護ステーションとも連携を図っている。認知症実践リーダー研修修了者を配置しており、スタッフに対して認知症ケアに関する留意事項の伝達、又は技術的指導に係る会議を定期的開催し、チームとして専門的な認知症ケアを実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「サービスプロフィットチェーン」を採用し、職員の満足度を高めることで顧客満足度や収益性向上を目指す優れた職場環境を構築している。その実現のために職員間の意思疎通を深め、介助の統一化を図り支援サービスの均質化にも取り組んでいる。また、看護師の常駐により医療体制が充実しており、協力医療機関との連携が十分に整備されている点も特筆に値する。さらに、利用者が食事の際に調理の格好をして盛り付けや調理を手伝うことで、施設内の一員であるという意識を高める工夫も見られる。これらの取り組みを通じて、職員と利用者が安心して過ごせる環境の整備に向けた工夫が見受けられることが特徴的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームに掲示し、いつでも職員の目に入るようにしている。年に2回理念テストを実施し日常の介護業務につながるよう意識付けをしている、	当施設では理念の共有と実践を重視し、新入職員への指導に理念を関連付けることで理解を深めている。また、全職員を対象に年2回のペーパーテストを実施し、理念の再認識を促している。さらに、職員間のコミュニケーションを強化し、介助の統一化を図ることで介護レベルの均一化を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、散歩のときなど「こんにちは」と声をかけさせてもらっています。地域の町内会の会合にも積極的に参加し、地域の方に認識して頂いています。	事業所は地域とのつながりを重視し、散歩時に近隣住民と挨拶を交わし、「お天気のこと」「花壇の花や庭の樹々」「近くを流れる川」などの話題を通じて親しみを深めている。また、自治会の会合にも積極的に参加し、入居相談を受けるなど地域との関係構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の町内会の会合で支援の窓口の一つとして存在していることをお伝えしたり、個別での相談もその場で受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回ご家族や地域の方を含めて実施し、客観的な意見を伺い、サービスに反映するようにしている。	運営推進会議は2か月に1回開催され、家族、地域、職員らが参加している。最近の議題では「防災活動」や「コロナ後の面会」が取り上げられ、面会時の距離感に関する家族からの提案を受け、手指消毒徹底を条件にアクリル板とビニールシートを撤去する対応が行われた。	外部評価緩和措置では、運営推進会議の構成メンバーが利用者、家族、地域住民、市町村職員等からバランスよく選ばれることが求められる。幅広い検討が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	船橋市の担当部署には日頃から小さなことでも相談報告を電話やメールなどで行い、必要に応じて指示を仰いでいる。	事業所は船橋市高齢福祉課施設整備係や指導監査第二係、介護保険課、生活支援課と連携し、緊急受け入れや困難ケースへの対応、運営や法解釈について相談を行っている。また、病院訪問時には窓口を直接訪問する形で連携を図り、地域包括支援センターとは入居に関する密な情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の研修で身体拘束について学ぶ機会を実施し、新しく入った職員も理解できるような場をつくっている。身体拘束廃止委員会を設置し、委員会メンバーが集まり相互チェックを行っている。	施設では身体拘束をしないケアの実践を目指し、年1回の研修を通じて職員に基本知識や具体例を共有し意識付けを行っている。また、認知症の方を支援する中で意図が伝わりにくい場合が多いため、強い言葉遣いにならないよう十分に注意を払いながら対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修で、高齢者虐待について学ぶ機会を作っており、新しく入った職員も学ぶ機会を設けている。高齢者虐待防止委員会を設置し、委員会メンバーが集まり相互チェックを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	船橋市やNPO法人など関係機関との情報交換を密に行うとともに、入居者様の家庭環境の変化に応じて活用ができるよう日頃から提案できるように準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一つ一つ説明を行い、疑問に思うところはないか確認をしながらすすめている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に年に1回満足度調査を行い、意見や要望を出しやすい環境をつくっている。利用者には日頃のかかわりの際に、意見や要望を引き出しやすい環境を作り報告している。	事業所では年1回の家族満足度調査を実施し、感染症対策下で面会や外出回数を増やす要望に応え、感染に配慮しつつ柔軟な対応を取っている。利用者からの「天ぷらが食べたい」という意見を生活レクで実現し、以後恒例行事となっている。また、LINEや手紙を用いた家族との日常的なコミュニケーションを通じて入浴回数の増加や定期的な電話希望などの意見を反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回行うユニット会議の場にて、意見や提案を聞く機会を設けるとともに、必要に応じて面談を行い、意見や提案を出しやすい環境を作っている。	事業所では職員の意見を反映するための取り組みを進めており、ユニット会議で多角的に検討した結果、起き上がり後の転倒防止策として布団対応を導入している。また、毎日の申し送りを基に義歯の使用ルールや排便コントロール、水分提供量のルール化を実現している。さらに、会議での意見収集に加え、書面やメモを通じて幅広く意見を集める仕組みを整え、職員が自由に提案しやすい環境を構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、評価を行っている。その際にフィードバックを行い、次の段階に気持ちが向くよう声掛けをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回の人事考課で自己評価するだけでなく、ユニット内でトレーナー役を設置し、力量の把握に努めている。そして日々のケアの中で段階を上げていけるようトレーニングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市の連絡会に所属し、情報交換をしている。法人内でも相互訪問を行い、良いところをお互いに取り入れることができるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望、趣向、ペースを大事にし、なじみの関係性の継続、なじみの場所なども大切にすることができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回ではすべてを聞くことは難しいが、一番困っていることから、枝葉のように広がっていく付随した問題を引き出せるよう労いを交えながら関係を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることを伺いながら「今」何が一番必要なのかをサービス提供事業者として判断し、状況によっては他のサービスもご提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の挨拶から夜の挨拶まで本人の生活を中心に、食事や洗濯掃除などの家事作業を共にしながら雑談をしてお互いに「手伝ってくれてありがとうございます」といえる関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に施設での様子を伝えるとともに、家族と面会や電話で話した後の嬉しそうな表情、安心した様子を再度伝え家族も本人を支えていることを実感して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の散歩の際に以前住んでいたところや、良く行っていたところを通り、本人の過去のエピソードを引き出している。面会も古い友人などに来ていただいている。	利用者がこれまで築いてきた人や場所とのつながりを大切にす取り組みとして、散歩時に以前住んでいた家の近くを訪れることで思い出話を引き出す機会を設けている。また、古くからの知人との再会では感動的な場面が見られる。さらに、家族による外出支援では、ご主人の法事への参列に向けた毛染めの準備を事前に行い、法事後に長男が自宅へ案内した後、施設へ戻るといった希望に寄り添った支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を観察し、精神状態に合わせてお隣に座ってもらい、安心できるような場面場面で排斥を変更して工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域で暮らしている方が多いのでスーパーなどで会った際には、ご挨拶をさせて頂いたり、心配な点がある方は直接連絡をしたり、新しいサービス事業者に経過を問い合わせたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接聞いてみるだけでなく、ご家族に聞いてみたり、何気ない会話の中にある「昔こうだったのよ」というヒントを聞きだせるように多方向な声掛けを敢えて試している。	利用者一人一人の思いや意向を丁寧に把握し、表情や態度から希望を汲み取る実践を行っている。洗濯物たみや散歩の希望に応じるほか、会話が難しい利用者には二者択一で答えやすくするなど柔軟な対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に直接聞いてみるだけでなく、テレビや雑誌を見ながら質問を試みたりしている。同郷の方が偶然いることにより、生活スタイルが見えてくることがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人やご家族に直接聞いてみるだけでなく、日中の過ごし方を観察したり、日常生活動作をする中で能力を見極めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族だけでなく、なじみの方、近所の方など周りの方に社会資源として関わったりして頂いている。出来るだけ一人一人に寄り添った介護計画を立てられるよう社会資源を利用している。	介護計画作成前にサービス担当者会議を行い、家族・利用者本人も出席し要望や意向を反映させて作成している。家事経験のない男性利用者も巻き込んだ調理活動が家族から好評であり、計画は3か月ごとに見直し、必要に応じて1~2か月で再検討を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、日中も夜間も含めて共有することにより、本人の状態気持ちの変化を見つけることができる。短期的、中長期的、長期的な視点でも変化をとらえ見直しを重ねている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	だあ行くという仕事に誇りを持っている方に対しては、施設の営繕の際にアイデアを頂いたり、実際に工具を使って補修をしてもらったりしている。不慣れな職員に技術指導も行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人暮らしで身寄りのない方が、社会福祉協議会の高齢者権利擁護センターの制度を利用し、こちらでの生活を支えてもらったり、近所の友人が面会に来ることにより、生きがい、楽しみになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携している内科の訪問かかりつけ医と連携しながら健康を支援している。他希望により外部の皮膚科や整形外科、泌尿器科、精神科の受診希望も受けている。	内科受診については全利用者が協力医療機関を利用しており、希望に応じて皮膚科、整形外科、泌尿器科、精神科等の外部受診にも対応している。看護師が常駐し、健康チェックや体調不良時の観察を行い、24時間対応可能となっている。訪問診療は月2回で、訪問歯科は週1回の往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の中での変化は、その都度施設看護師に報告し、医療的な指示を仰いでいる。必要に応じてかかりつけ医に連絡し受診もしくは緊急受診もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、速やかに入居中の情報を提供し、日常生活に困らないようにしている。入院中も連絡を取り、経過の確認、退院のめども聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の変化を確認できる強みがあるので、予後予測を行い、ご本人、ご家族の意向に寄り添えるようかかりつけ医と協力しながら対応している。	入居時に重度化や終末期の対応方針について家族へ説明し、可能な支援と不可能な支援を明確に伝え、同意を得ている。今年度は看取りが1件あり、年1回施設看護師による看取り研修で身体変化等の知識共有を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については施設内で研修を行うとともに、対応できるマニュアルを作成掲示し、いざというときでも迅速に対応が出来るよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応については施設内で研修を行うとともに、対応できるマニュアルを作成掲示し、いざというときでも迅速に対応が出来るよう備えている。	隣接するGHアスカみずきⅡと合同で、年2回火災を想定して夜間想定と消防署立会いによる避難・通報・消火訓練を実施している。地域住民にも回覧板や地域の掲示板を通じて周知を行い、防災意識の向上に努めている。食料や飲料は各ユニットに3日以上備蓄して災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として尊敬の気持ちを常に持ちながら言葉かけをしている。言葉が聞き取りにくい方には大きな声で耳元で声を掛けたり、身振り手振り必要に応じて筆談をしたり伝える努力をしている。	利用者の尊厳と権利を守るため、自己決定を促しつつヒントや選択肢を出しながら時間をかけた支援を行っている。思いや希望を表現しにくい利用者には、目線や声を合わせて相手の立場に立った配慮を徹底している。失禁など他の方に知られたくないことに関しては、耳元でそっと話したりメモに書いて見せている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで決めたり誘導するのではなく本人が決めやすいようにいくつか選択肢を準備して自己決定できるよう支援している。決定するまで時間のかかる方はほんにんがあせらないよう「ゆっくりでいいですよ」と声掛けするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴日や時間についてあらかじめご本人に聞いている。その時の気分や体調にもよるので「何時と何時が良いですか」と選んでいただける環境を作っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には洗面台で鏡を見ながらご自分のペースで整容をしていただいている。カチューシャを何本かお持ちの方にはすべてお見せしてどれが良いか選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を手伝っていただける方は、職員同様に調理の格好をしてもらい盛り付けや調理をして頂いている。一人だけでなくほかの方にも食卓の準備や片づけを手伝ってもらうことが多い。相乗効果により感謝の言葉が交わされている。	食事の支援では、利用者にご下しらせや盛り付けを手伝ってもらい、味見にも参加してもらっている。食前にはメニューを伝えたり、匂いを頼りに献立を当てるクイズを行うなど、食事への楽しみや関心を高める工夫を行っている。誕生日には皆で手作りデザートを作ってお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の状態で体が傾いてしまう場合には、ご本人に「体をまっすぐにしてたべませんか」と声を掛けるとともに、姿勢を治していただき少しずつ傾いてしまうので、クッションをはさんで真っすぐを保てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の習慣として自ら行う方もいるが、難しい方はトイレに立った際に「ついでに」とお声掛けしていつている。歯ブラシをつかんでしまう方は、ご家族に相談し職員で磨ききれない部分を月1回歯科フォローしていただき、日常でも歯科医アドバイスでかまわないような補助具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに立つサイクルとパッド失禁のタイミングをチェックし、時間帯によりトイレ誘導の間隔を変えて出来るだけトイレで排泄している。	利用者の立ち上がりや立位保持、座位保持能力を確認し、排泄サイクルを把握したうえで声掛け誘導を実施している。立位支援の結果、紙パンツから布パンツに移行し、トイレ訴えが明確になった利用者も見られる。排泄サインにも細やかに対応し、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続くと夜間帯に起きる回数が増え、安眠できていないことがあるので日中立ち上がりが多い時には一緒に廊下を歩行したり、冷水や牛乳をとっていただくようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	あらかじめ「本日出浴いかがですか」と伺い、本人の体調、気分に合わせている。夕方に入りたい方もいるので、対応できる時には夕方に入浴して頂き、夜安眠している。	週2回の入浴を基本としつつ、利用者の希望に応じて随時入浴を可能とする体制を整えている。入浴スタイルは本人の生活歴等に合わせ、入浴剤や会話(昔話など)、歌などを取り入れ楽しめる工夫も行っている。皮膚疾患等発見時は速やかに施設看護師へ報告し訪問診療へつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に起きていることが難しい方は、午前、昼食後、おやつ後と横になっていただき、食事時、水分摂取時にしっかりと体と気持ちを起きて頂き、食べ物や飲み物を摂取している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を確認しながら、お薬の確認をし、提供するようにしている。全員1日2回体温、血圧、サチュレーション測定をしているので、降圧剤がある方は数値の変動を確認している。下剤がある方は排泄状況を見ながら服用調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性が多いので、その方の判断力、手先の能力に合わせて洗濯たたみや掃除、食事やおやつ準備を多くの方に手伝ってもらっている。歌が好きな方や演劇をやっていた方もいるので唄ったり、即興でミュージカル風に会話をしたりと非日常的な空間も楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか戸外に出る機会は少ないが、初詣(地域の神社)、お花見(桜、あじさい)はできるように体制を作っている。法事の前に毛染めをしたい要望はご家族に協力いただき実施している。	天気の良い日はウッドデッキや駐車場の花壇や桜、アジサイを眺めながらの外気浴や、同じ区画内の川への散歩など日常的な外出を支援している。初詣では地域の神社へ車椅子で外出し、感染症対策を踏まえて外食等は家族対応としている。利用者の希望にも柔軟に対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社会で生活するうえで、今まで当たり前に使ってきたお金「いらないから大丈夫」と言われても、持っていないと不安になるのは当然なので、自己管理できる方はご家族了承の上、持っていたいでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を自己管理できる方は、自らのタイミングで電話をしている。難しい方はあらかじめ、かける先のご家族と日時を決め職員立会いの下電話をしている。手紙も受け取り返事を書いて職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた過ごせるようクリーム色をベースにし華美にならないようにしている。季節の装飾と一緒に作って飾ることにより、達成感を継続して持ち続けることができ、話題の一つとして会話が弾んでいる。	夜間に床や手すり、椅子、テーブル、トイレなどの消毒を徹底し、汚れは随時清掃して清潔な環境を維持している。リビングでは、歌の会や体操、ゲーム、風船バレー、塗り絵、ビンゴ、季節の飾り作りなどを行い、利用者が親しみを持てる居心地のよい空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、食事以外のときは一人で過ごす場所に移動されたり、別のテーブルの方と話せるように椅子を移動したりと居場所を複数持つ方もいて、その時々で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた馴染みのもの、たんすや茶箆、筒、仏壇など持参され、ご自分の居室として落ち着いて過ごせるよう工夫している。ご自宅ですべての湯飲みや茶碗、お椀、お箸なども持ってくる方もいる。	各居室にはエアコンをはじめ必要な家具類が備え付けられているが、多くの利用者は使い慣れた私物を持ち込み、居心地のよい空間を整えている。利用者は、居室では写真や手紙を眺めたり、趣味活動やテレビ鑑賞など思い思いに過ごしている。また、居心地よく過ごしてもらう工夫としては、温度や日当たりに気を配っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家で使用していた馴染みのもの、たんすや茶箆、筒、仏壇など持参され、ご自分の居室として落ち着いて過ごせるよう工夫している。ご自宅ですべての湯飲みや茶碗、お椀、お箸なども持ってくる方もいる。		